

2014年5月30日

報道関係各位

中部学院大学  
中部学院大学短期大学部

これからを担う世代が岐阜県内の福祉について学ぶ

## 「美濃と飛騨のふくし」

### 関市上之保地区で学生と地域の皆さんが交流します

中部学院大学・中部学院大学短期大学部は、岐阜県内の福祉の現状について学ぶ「美濃と飛騨のふくし」を開講しています。この授業のねらいは、美濃・飛騨の地域に対する関心を高め、地域の諸活動から学ぶことで、地域人としての素養を培い、これから進む職業領域において、地域社会に貢献する人材の育成をめざすことです。

開講して4年目を迎えますが、今年は関市上之保地区をフィールドに授業を進めています。4月から8回の授業を行い、すでに上之保地区から、集落支援員、まちづくり協議会役員、地元住宅産業関係者、市役所職員が来学し、地域の様子、子どもや高齢者の生活課題、地元産業の様子、まちづくりの活動について講義しました。

今回は学生が地域に出かけ、地域を見聞すると同時に、地域の活性化について学生の視点から考えることにしました。当日は、上之保地区まちづくり協議会と関市上之保事務所（地域事務所）の協力を得て、「高齢者」「子ども」「産業」の3グループに分かれて、学生たちが調査と交流を行います。プログラムは現在、地域のまちづくり協議会と検討中ですが、茶摘み体験、地域内の散策、小学生との交流会などを予定しています。

#### 記

- 日時 2014年6月14日（土） 午前10時～午後3時
- 会場 関市上之保生涯学習センター  
(関市上之保 15110 番地 1 TEL 0575-47-2500)
- 対象者 大学3学部3学科の学生 約35名
- 趣旨 次項参照

(本件に関するお問い合わせ先)

中部学院大学地域連携推進センター

担当：飯尾 同センター所長/人間福祉学部教授 TEL:0575-24-2211

## 「美濃と飛騨のふくし」

岐阜県は、「木の国 山の国」といわれ、自然豊かな県です。また、斉藤道三、織田信長など戦国の武将が活躍し、濃尾平野を中心に豊かな経済を生み出す地域でもありました。そして現代、日本の中心に位置し、伝統と新しい文化の中で、210万人を越える県民が生活を営んでいます。

地域は、学び成長し、仕事を行い、家庭生活をおくるとともに、社会参加をする場でもあります。その地域が、安全・安心であり、活力とやすらぎに満ちたものであることが望まれています。そのため地域には、行政機関や企業・商店、学校や病院・福祉施設、住民組織やNPOなどさまざまな組織があり、活動しています。

本学では、これまで地域連携推進センターが中心となり、大学と地域との連携を築き、地域貢献に取り組んできました。大学が持つ教育力や知的財産を、地域社会の安全・安心と発展のために活用できるよう、いろいろな連携事業に取り組んできました。

- 1) 図書館に「郷土の福祉ライブラリー」を設置し、福祉関係の資料と図書の収集保存、提供
- 2) 地域の生涯学習や福祉教育、福祉研修などに講師を派遣し、研究の成果を提供
- 3) 行政機関などが設置した審議会、協議会、委員会等に教員を派遣し、専門的な立場からの計画提案
- 4) 行政が行う調査研究に参画
- 5) 大学に隣接する地域自治会と協働で、地域まつりを実施し。また、地域の高齢者対策などに協力
- 6) 地域おこしイベントなどへの参加

このように、大学と地域との間で築いてきた協力関係を、学生に開放し、学生たちが地域社会のエネルギーから学び、地域人としての準備を行うとともに、学生たちが持っている感性やアイデアを地域社会のために役立てる方途を導き出すことが、次の段階として求められるようになりました。

そこで、2011度から大学・短大共通の基礎科目として「美濃と飛騨のふくし」の講義を開講しました。この授業は、美濃・飛騨の地域に対する関心を高め、地域の諸活動から学ぶことで、地域人としての素養を養い、地域社会に貢献する人材の育成を目指します。さらに、これから進む経済や福祉、教育、医療などの職業領域において、地域社会に対する貢献のあり方を考えます。

講義には、本学が連携協定を結んでいる団体、企業からゲスト講師を迎え、地域実践の報告を題材としてディスカッション中心に進めていきます。その際、ファシリテーターを人間福祉学部の飯尾良英教授（短期大学部専攻科長）が務めます。

以上